

## 4・20 JR 事故追悼集会報告書

報告者 F・S

4月20日に尼崎市小田区民会館で、JR 事故の追悼集会が開催された。追悼集会では、最初にフリージャーナリストの安田浩一氏が講演。

21年前に国鉄が分割民営化され、JR グループが発足した。JR 西日本は大阪を中心の大都市圏で、私鉄との競争意識で利益追求をだけを考え、安全性を無視した鉄道事業を行っている。これはJR 西日本だけではなくグループ全体で利益優先主義で安全を真剣に考えていないことがはっきりしていることを話されていたことが印象的であった。

JR 西日本は、尼崎事故がおこる前に、鳥取の因美線で、工事中の作業員が列車に引かれて死亡するという事故を起こしている。この事故は、労働組合が再三工事を安全に行うため、列車の見張り係りを付けるように訴え、やっと一人の見張りがついた。しかし、単線のため見張りの人がいない反対方向からきた列車に気づかずはねられたのである。これも会社の利益優先主義が生み出した悲惨な事故である。

また、昨年 JR 天王寺駅でケーブル火災事故を起こしているが、これもケーブル工事に知識のない下請け会社へ発注したため起きた事故であった。幸いこの事故での負傷者はいなかったがこれも会社の利益至上主義が起こした事故である。

尼崎事故で犠牲になられた人の親族がビデオで「JR は本気で反省しているのか？」と語っていたが、正に JR 経営陣は常識のかけらもないと考えてよい。

私は事故現場まで行進しながら、魔の急カーブを目の辺りにし、会社規則で追い込まれた運転手が、スピードを落としきれずに悲惨な事故が行ってしまった。この事故は、運転手を追い込む環境を常態化させた JR の責任である。このような会社体質に、国鉄解体によって弱体化した国労を中心とする労働組合は何をしているのであろうか。1047名の解雇問題も含め労働者が立ち上がらなければ、尼崎事故のようなことが、また起こる可能性が十分に考えられると私は思う。

この尼崎事故を大きな教訓に、労働者が主人公になる職場作りこそが本当の安全対策になっていくものと信じて労働運動に励んでいきたい。